

ムギ類うどんこ病情報

平成31年4月25日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

安城市と豊田市でコムギのうどんこ病が多発！

1 ムギ類うどんこ病の発生状況

4月下旬の巡回調査において、安城市と豊田市のコムギほ場でうどんこ病の発生が多く認められました。発病茎率は安城市で38.3%（2町4ほ場の平均値）、豊田市で47.2%（3町6ほ場の平均値）と非常に高くなっています。大口町、幸田町、西尾市の調査ほ場では発生を確認していませんが、全調査ほ場（20ほ場）の発病茎率の平均値は21.8%（平年1.04%、前年0.50%）で、過去10年と比較して最も高くなっています。

2 うどんこ病の生態と被害状況

うどんこ病の白いカビはやや乾いているときに多く形成され、風で飛散して付近に伝染します。この病斑は下葉から発生し、しだいに上位葉に移ります。罹病葉は早く枯れあがり、葉鞘、茎、穂に進展すると稔実が悪くなるので、多いときは30%くらいの減収になります。

3 防除対策

発生初期は下葉から病斑が現れるので、株元まで薬剤が到達するように散布する必要があります。うどんこ病が発生しているほ場では、下表を参考に防除しましょう。うどんこ病に適用がある薬剤の多くは、ムギ類さび病と赤かび病にも適用があります。今作、すでに使用した薬剤は避け、FRACコードを考慮して選定しましょう。

表 小麦におけるうどんこ病の主な防除薬剤

作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	FRACコード
麦類 (大麦を除く)	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	3
	ストロビーフロアブル	収穫14日前まで	3回以内	11
小麦	パンチョTP顆粒水和剤	収穫14日前まで	2回以内	U6, 3
	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	3
	チルト乳剤25	収穫3日前まで	3回以内	3
	プロパティフロアブル	収穫3日前まで	3回以内	50

FRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

3：DMI殺菌剤 11：QoI殺菌剤 50：ベンゾイルピリジン U6：フェニルアセトアミド

FRACコードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/lab0/jfrac/pdf/code_pdf01.pdfを参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。